



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

形容動詞化する漢語：「具体」と「具体的」の場合

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 荒尾, 禎秀 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/2698

形容動詞化する漢語

「具体」と「具体的」の場合*

荒尾 禎 秀

日本語日本文学**

(2004年9月30日受理)

キーワード: 「具体」「具体的」・漢語・形容動詞化・動詞化・官庁用語

—

「健康の話」と「健康的な話」は違う。これに比して「現実の話」と「現実的な話」とでは違いは曖昧になる。

漢語は形容動詞化することがある。このため漢語には形容動詞に関わっての品詞論的な議論がある。また、意味論的な問題も起こる。

本稿では「具体」と「具体的」の用法を例に、いくつかの観点から形容動詞となる漢語の様相を考察してみたい。

以前から教授会の席上で「具体の例」といった表現をする大学教員がいて、自分では持っていない用法なので、奇異ではあるが個人的な癖かとも思っていた。筆者の内省では「的」や「例」「策」などを伴うことなく、「具体」を単独に使うことはまずない。また、通常接する周りの人にも「具体」を単独に使う人はいない。もっともこのことは自体がいささか日常語とはいえない、ということを考えれば、実態は少し違うかもしれない。

ところが、「具体」がある人々の間ではかなり用いられている状況のあることにある時気付いた。一方インターネットのホームページ上では次のような記述も目にした。

「Oさんはしばしば「具体には」という言い回しをするのだが、「具体的には」という「的」が聞こえないのだと思っていた。しかし、文章にもそう書いている。気になって仕方がない。その後、Tさんから来たメールにも「具体的内容」という言い回しがあった。これって正しい言葉遣いだったのか？気になって仕方がない。」

(<http://www.xt.sakura.ne.jp/~sousui/daiary/200408.html> 2004年8月10日)

このことについては「同じ漢語でも形容動詞の用法のないものがより切実に「的」を求めると言える。」という解説もある。(倉島長正『正しい日本語101』PHP文庫 P196「スマートさ的にはどうもね」)

本稿では、たとえば「具体的の」「具体的には」、「具体の」「具体には」などという言い方があるとして、紛らわしくないときは、略して「具体的」、「具体」と記述する。「具体例」「具体策」の類はいま考察外とする。とりあえずの関心は、現代においてどういう人々が「具体」を用い、どうして「具体」という言い方が行われるのか、である。

* A Study of the *Kango* "Gutai (具体)"/Yoshihide ARAO

** 東京学芸大学 (184 8501 小金井市貫井北町4 1 1)

二

「具体的」は「具体」がもとになってできた。日本語としての起源は『哲学字彙』(井上哲次郎 明治一四年 1881)の「Concrete 具体, 実形, 形而下, 按, 易繫辞, 形而下者, 謂之器」が早いとされる。その歴史は別に述べることとし, 本稿では現代語の用法について述べる。

現代語の国語辞書は, 「具体」を名詞とし, 「具体的」は形容動詞とする。「具体」が「例」「策」などを伴うことなく, それだけで名詞として働くことがあるのかどうかは記述の上ではわからない(注1)。

平成8年から同16年7月までに, 身近で実際に耳にし, 目にした「具体」の例を記録しておいたので, それを整理して示すと次の通りである。カッコ内は後続する語句で, 数字は複数例での用例数。

- 具体に(扱う・言う(2)・入れる・動く・移す・運営する・おっしゃる(2)・書き込む・考える・聞く・作る・つめる(2)・提示する・どうなる・どうする(2)・はいる) 20
- 具体には(検討する・作る・～だ・～と思う・～までに決める) 5
- 具体的な(質問・入試方法・もの) 3
- 具体が(出る) 1
- 具体の(案・課題・検討(2)・こと・事例・審議内容・人事・数字・スケジュール・説明・選考過程・内容・日程・話(3)・プラン・方策・もの(2)・問題・やり方(2)・例(2)・割り振り) 27
- 具体について 4
- 具体を(言う・イメージする・思い浮かべる・どうするか・見る) 5

このうち書かれたもの3例をまず挙げる。

いろいろな案が考え得る中で, 現段階で具体のプランがあるわけではないが, («国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会 第12回議事要旨」のうちの「事務局の発言」のマークがある一文。「事務局」は工藤高等教育局長, 清水大臣官房審議官, 西阪専門教育課長, 竹下教職員課長, 石井教育大学室長他。平成13年7月)

また, 具体の選考過程において投票を行う場合であっても, («新しい『国立大学法人』像について(中間報告)(案)」・人事制度 2 制度設計の方針 P32・調査検討委員会 平成13年9月)

そのためにも, 今から大学自身が意識し具体の検討に入らなければならないと考えている。(「文教時評=大学改革と温度差」執筆者(望)=ペンネーム 『週刊 文教ニュース』第1645号 平成13年10月8日所収記事)

これら採取した65例を品詞で見れば, 一旦は形容動詞と考えてもいいものは「具体的な」, そして或いは「具体に」であるが, 他の「具体」は名詞としてよい。

発話者についてみると, 学内者は次の通り。カッコ内は複数例での用例数。

- K 事務局長(2)・Y 事務局長(5)・N 事務局長・D 事務局長(3)・A 庶務部長・Y 総務部長・K 学務部長・S 庶務課長・K 企画調査課長・Y 主計課長・S 施設部企画課長・A 入試課長・T 附属学校事務長・Y 附属学校事務長・Y 専門員・S 係長(2)・K 係長(2)
- H 学長(7)・K 副学長・U 副学長(3)・M 図書館長・H 学部主事(4)・T 教授・K 教授・KA 教授・KO 教授・F 教授・I 教授・M 教授(2)・N 助教授・S 助教授(2)・K 助教授

使用者を見ると, 事務職員では, 文部(科学)省からのいわゆる異動官職である事務局長, 部課長の使用例が多い。特に歴代の事務局長が「具体」の使用者である。教員では, 「具体」を使用するのは学長以下, 多くは大学の管理職であつたり, 省庁の委員会委員や大学の委員会委員長をしているなどの職務上, 異動官職の事務職員と接する機会が多い者である。

学外者は次の通り。

- 文部科学省大学局学生課長・高等教育局 T 教職員課長・高等教育局 F 教育大学室長

K 日本育英会理事長・O 国立学校財務センター所長・A 東京国立博物館長・H 日本育英会理事・T 東京新聞論説委員・T 国立大大学院教授

これまた多くは文部（科学）省の現役やOBである。

使用の場面は会議や打ち合わせである。

以上をまとめれば、会議などのあらたまった場面で、文部（科学）省の管理職的な地位にある人、あった人、そしてそのような人々と接触する機会の多い人を中心に「具体」が使われていると言える。

このことから「具体」は“官庁用語”と推測される。

また、いささか伝播力のある表現のように直感される。多用傾向の認められる人がいる一方で、「具体」を使った記録のない部課長や学長も当然いる。記録の不十分さもあるうが、使わない人は一貫して使わないと言う個人差がある。

その用法を見ると、「報告書には具体の事例を挙げながら・・・具体の提案をしている。」（教育大学室長）のように、ほぼ「具体的」「具体的な」でよかったり、「具体を言えば事務局にパソコンを入れていくという話で」（H学長）のように、「具体的な内容を」と言い換えてよい。つまり、多くの場合「具体」を使わずに「具体的」でまかなえる。

「この数字は実態を聞いてみて具体に入れたい。」（Y事務局長）

「具体に運営したときこれがどうなるか見えにくい」（国立学校財務センター所長）

「ご確認いただいたということで、具体に入ります。」（K教授）

「ここには具体について書いてありませんが」（M教授）

「実施のやり方の具体についてお尋ねくだされば」（M図書館長）

「具体には木曜日にでも明日出るものをマル文（＝文科省）に持って行こうと思う。」（Y事務局長）

「時間の都合で具体の説明を省略させていただきますが・・・」（KO教授）

「具体の配分については 委員会で検討することになっております。」（主計課長）

「具体のお話を申し上げなければいけないのですが」（育英会理事長）

「こういうのは運営の具体をイメージしたほうがわかりやすい」（N助教授）

示したこれらの例の中には、「具体的」を用いた場合とでは微妙にニュアンスが違うものがある。

三

“官庁用語”という予測のもと、インターネットの「国会会議録検索システム」を使い、戦後の第1回国会から最近の第160回国会まで、昭和22年6月23日から平成16年8月31日までの、57年間の本会議・委員会での「具体」「具体的」の使用状況を調査した。

現代語で名詞、形容動詞に接続しうる接辞を「具体」「具体的」に付した文節を検索し、さらに110例以下のものについては例を確認して修正を加えた（注2）。なお、旧字体での検索も行ったが、用例数では区別せずにふくめた。本稿での引用も新字体に統一した。

まず用例数の一覧〔 〕を示す。

「具体」「具体的」に、いわゆる断定の助動詞「だ」「なり」が接続した用法についての様相で、得られた用法に用例数を記した。「具体的」のほうは形容動詞「具体的だ」の活用の様相となっている。「 」は「具体的」に対応する「具体」の該当例を得られなかったもの。

〔 〕

		具体的だろう	5例
		具体的だった	10例
具体で	10例	具体的で	1566例
具体に	995例	具体的に	52979例
		具体的だ	118例
具体的な	101例	具体的な	49692例
		具体的ならば	2例
		具体的ならしむ	4例
		具体的ならざる	1例
		具体的なり	4例
		具体的なる	250例

このうち、「具体的」の諸例に違和感はない。「具体的なり」の類は昭和27年以降には例がない。またいわゆる「タリ活用」とされる例はなかった。

一方「具体」には「具体で」「具体に」「具体的な」があり、特に「具体に」は頻度が高い。「具体」にも「タリ活用」相当の例はない。これらはいずれも日常一般とは隔たる用法と思うが、国会での議論では例が多い「具体に」「具体的な」は特に注目される。

「具体で」の10例のうちには「具体です」(後述)は含んでいない。2例あった「具体でございます」はこの数に入れた。

「具体で」の例を2つ挙げる。

「統合移転をやり、筑波大学を整備してまいる経過におきまする予算の関係の点でございますが、具体で昭和四十九会計年度のことでお答えいたしますと」(75回 昭和50年4月 政府委員文部省大学局長井内慶次郎)

「もう一度検討させていただきます、もっと具体で書いた方がいいのか、検討を進めてみたいと思っております。」(118回 平成2年5月 説明員警視庁交通局運転免許課長滝沢浩二)

「具体でございます」「個別具体での対応」を除くと、「具体で{答える/書く/申し上げる/質問する/なす/出る/違う}」というように、いずれも副詞的用法である。材料・手段を表す「で」を伴っているとみれば、これらは名詞である。ただし「具体」そのものは少しも具体的な物事を示していないところが「鉛筆で書く」などの例とは違う。

「具体で」の例はいずれも「具体的な{こと/話/事例/手法}で」などと言いかえができ、見かけ上は省略形とも言える。さらに、端的には「具体的に」と言い換えられるが、「具体で」と「具体的に」が相通するのはどう考えればいいのか。

また「具体で」の例に「具体的に」は代入できるが、「具体的で」を代入すると非文となる。「具体で」「具体的で」は働きが違う。

「具体に」の例には後述する「具体について」「具体につき」を除いている。また、「具体には」の用法154例を含んでいる。「具体的に」も同じ。

「具体に」は例が多いので任意に用例を抽出してみるに、多くは「具体的に」と言い換えてよい(注3)。

先の「具体で」も「具体的に」に置き換えられるとすれば、「具体で」は「具体に」と近似した用法となる。「具体に」に比して「具体で」の例は若干であることから考えると、「具体で」の例は「具体に」のバリエーションと見てよいか。

「具体に」は、「個々具体に」「個別具体に」などを除いても、昭和22年から今に至るまで例を得る。ただ、10年ごとの用例数は、15・42・100・317・250・153と昭和50年代以降に急増している。偶然なのか、「具体的に」は10年単位で見ると1万例以上あったのが、昭和50年代からは6000例程度にへっている。歴史的には比較的新しく力を持ってきた用法なのか。国会においては「具体的に」が圧倒的とはいえ、「具体に」も一般化してい

るかのようである。

「具体な」の例は、多く「具体的な」に言い換えられる。たとえば「今具体的な事実を含めてお答えがございました。・・・さてそこで、これから具体的な問題についてお尋ねをしたいと思います。・・・全体的に国内の石炭政策が国内炭の撤退、縮小という方向でずっと来ている。その影響が、今具体的な事実で示されましたように、産炭地には大変な打撃となって出てきている。」(18回 平成2年4月17日 中沢委員)の例は如実にそのことを証明する。

「具体な」の101例を用いて、その使用者の特徴を概観しておく。

使用者別に見てみると、質問をしている国会議員(24人)42例。(14回および4回使用者が各1名。2回使用者が2名。)答える国務大臣(11人)16例。(海部俊樹総理大臣・宮沢喜一総理大臣・文部大臣5人ほか国務大臣5人。海部は文部大臣、総理として各2回使用。)省庁の局長・課長クラスである政府委員や説明員は17省庁・機関(35人)で38例。意見を開陳する参考人や公述人(5人)5例。

一般には使用しないと思われる「具体な」を、内閣総理大臣や各国務大臣は使う。もっともそれが自分自身の表現か、記された答弁書を読んだのものはわからない。大臣では文部大臣が多いが、「具体」を用いる政府委員の所属省庁は広範囲で、建設省、自治省、文部省の順に多い。いくらか文部省関係者の使用が多い傾向にあるとしても、取り立てて多いわけではない。「具体」を使用する政府委員・説明員はかなり多く、広範囲である。政府委員・説明員は省庁の局長、課長が多い。ここから少なくとも「具体な」は省庁の幹部の用語とみてよく、拡大して「具体」は“官庁用語”だと思われる。「具体」を多用する傾向のある者をここでも指摘できる。

「具体な」が修飾している語は「問題・事例・例・もの・こと」などが多いが、「あり方・あれ・手続き・ところ・場合・はなし・やり方・依頼・基準・議論・計画・結論・研究・行為・作業・事業・事件・事実・事象・事情・実像・実態・質問・指導・準備・状況・処理・数字・説明・措置・対応・対策・適用・内容・被害・方法・要望・スケジュール・パーセント・プロジェクト・ルート」など多様である(注4)。

名詞に助動詞「だ」の連体形「な」がつくき、一般には「の」や「はず」のような抽象度の高い名詞性のある形式語が下接するとされる。上記の下接語群や、はじめに挙げた身近な例の場合の下接語から考えて、「具体な」の「な」は助動詞なのか。すべてが抽象名詞なので、その限りでは名詞「具体」に助動詞「だ」が付いたものと見る。しかし、「具体」という語の特性ゆえに、下接語が形式名詞より広がりを持っている抽象名詞である。言い換え可能な「具体的な」になぞらえていえば、「具体な」は形容動詞的性格を持っているという考えもありうる。

連体修飾となる「具体な」は、「具体の」との関係が問題になる。これについては後述する。

次に用例数の一覧〔 〕を示す。これは前述〔 〕以外の用法と用例数である。活用するものの語形はここでは基本形で掲出した。

〔 〕

具体が	13例	具体的が	2例
具体の	2963例	具体的の	6656例
具体につき	24例	具体的につき	23例
具体を	14例	具体的を	12例
具体と	13例	具体的と	384例
具体は	8例	具体的は	37例
具体も	1例	具体的も	5例
		具体的へ	3例
具体まで	1例	具体的まで	4例
		具体的か	23例
		具体的らしい	1例
		具体的みたい	1例
具体です	3例	具体的です	186例
具体なのです	1例	具体的なのです	348例
具体する	2例	具体的する	17例

「具体」が漢語名詞であれば、しかるべき助詞助動詞が付くことは考えられる。しかし実態としては現代では内省してもそのようには用いない。にもかかわらず国会では上記のように多様な用法が認められる。そのみならず、動詞化しても用いる。

上記のうち「具体的」の用法のうち、「具体的と」「具体的か」そして助動詞の後続したものは普通に使用されるが、それ以外は動詞化した用法も含めて耳慣れない。

以下、まずは用例数の多い「具体の」について述べ、続いてその他の用法について述べる。最後に動詞化した用法を述べる。

「具体(的)の」について

「具体の」は「具体的の」に比すれば例は少ないものの、無視できない用例数である。

現代の一般では「具体の」に相当するのは「具体的な」であろう。ここに「具体の」「具体な」「具体的の」「具体的な」の差異についての課題が認められる。

「具体の」「具体な」「具体的の」「具体的な」の使用例の増減を10年単位で見ると、その分布は次の通り歴史性を認めうる。

	具体の	具体な	具体的の	具体的な
昭和22 .6 ~	83	8	4109	12899
昭和32 .6 ~	234	10	1824	10165
昭和42 .6 ~	502	21	603	9833
昭和52 .6 ~	725	24	94	6539
昭和62 .6 ~	705	21	22	5268
平成9 .6 ~	714	16	4	5493

「具体的な」が最も一般である点は一貫して変わらないが、全体としてこの4種類による使用例の総数がなぜか減少傾向にある。「具体的な」は昭和20, 30年代に比べて最近では半分程度の使用例に減じている。さらに、「具体的の」の激減は注目に値する。だが、その分何かが増加しているわけではない。「具体的の」の衰退には何か事情があると考えるに十分な数値の推移であるが、その事情は未詳。このような中で「具体の」が特有の働きをし始めているのか。「具体の」は、先に述べた「具体に」と同様に、昭和50年前後から増加している。

「具体」に表現的斬新さがあるのか、国会特有の事情か。（「具体」を多用する者がいると数値は大きく膨らむので、そのようなことが一因なのかもしれない。）一般社会での「具体の」の使用状況に変化があるのか注目される。

「具体の」および「具体的の」の用例を、古いものと新しいものから挙げる（注5）

「組合員の会計報告要求に関する規定、これが具体の内容でございます。」（3回 昭和23年11月25日 政府委員労働政務次官竹下豊次）

「法案成立後ではございますが、六月の下旬に私ども始めて具体の過誤について発見させていただいたというところでございます。」（平成16年8月5日 政府参考人渡辺芳樹）

「直ちに委員会に付託されるという点につきまして、具体的の規程を設けたのであります。」（昭和22年6月27日 浅沼議員運営委員会委員長）

「従いまして、具体的の算定につきましては」（平成16年6月14日 政府参考人総務省自治行政局公務員部長須田和博）

「具体の」に下接する語は「こと・場合・はなし・もの・議論・事案・事実・事例・内容・法案・問題・例」をはじめ「ケース・ニーズ・ルール」などの外来語も含めて、きわめて多様である。この下接語は「具体的の」の場合も類似しており、特に両者に特徴的な差異は見られない。また先の「具体的な」の下接語とも差異は認められない。

その他の用法

以下の用法は、議事録が60年間近くにわたることを考えると、その用例は極めて少ないといってよい。加えて通常の文としては理解しがたいものが少なからず含まれている。したがって参考に状況を示すものである。

「具体（的）が」「具体（的）を」について。

用例数の上で、多く「具体的」が「具体」より優勢な中で、この二つは「具体的が」「具体的を」を上回る。その事実と、加えて「具体的が」「具体的を」も一般的ではないのではないか、という問題。

「具体が」は「具体的な{こと/もの}が」と言い換えてよい。「ない・ある」の他ほか「あがる・あげられる・違反する・進む・どうなのか」に続く。「そのシステムなりなんなりをどのように迅速化していくのか、替えていくのか。その具体がございましたら、教えていただきたい」（142回 平成10年4月28日 田委員）のような用法で、一般的であるかどうかは別として、見聞きしてそれなりに理解は出来る。

「具体的が」の2例、「あなたは具体的とおっしゃいますけれども、その具体的がわれわれには納得できないのです。」（51回 昭和41年2月16日 小松委員）、「さらに、具体的な危機の分析でも非常に具体的がないというのは、例えば倒産という言葉すらこの大臣の所信表明の中にはないんですね。」（154回 平成14年3月19日 西山登紀子委員）のうち、前者は引用ゆえ用法として理解できるが、後者は一般的ではない。

「具体を」は「具体的な{こと/もの}を」「具体的な{案/処理/内容/例}を」及び「具体化を」という内容である。続く語は「する・作る・聞く・持つ・申し上げる・あげる」など話の内容に従いいろいろである。例えば「それを地方税にするかあるいは国税にするか、具体をどうするかというところはまだ勉強中であります。」（150回 平成12年10月25日 黄田川委員）のようで、これも日常一般であるかはともかく、見聞きして理解は出来る。

この「具体を」は『日本国語大辞典 第二版』の「具体」の項目の例に「維新以降内治平和為政家始めて修交の具体を思ふ。」（条約改正論 1889 島田三郎）が挙げられているように用法として早くからあるようである。

一方、「具体的を」は昭和24年から昭和61年まで12例あり、その例は次のようである。なぜか近年の例はない。「具体的なことを」の意味で使っているとみれば納得できるものがある反面、なんとでも理解しがたいものもある。国会での質疑なので、特有の言い回し、ないしは言い損ないということも考えられる。いずれにしても学校教育では朱を入れられるであろう。

「この線に沿って何らかの具体的を決定したいと思つたのであります。」（5回 昭和24年9月26日 説明員文部事務官西崎恵）

「具体的にどこまで公営を拡大するかという具体的を話したわけではございません。」（101回 昭和59年3月30日 国家公安委員会委員長田川誠一）

「あなた方は伊丹の買収の内容について調査をなさっていますか。具体的を例をあげていいですよ。」(48回 昭和40年2月27日 榑崎委員)

「文部大臣、この問題についてどういうお考えなのか、ひとつ具体的を示してほしいと思います。」(104回 昭和61年3月6日 福岡委員)

? 「具体的をお答えを願いたいということをお願いしておきます。」(40回 昭和37年3月7日 島上委員)

? 「この問題がかなり具体的を進められつつございます。」(48回 昭和40年3月18日 参考人海外移住事業段理事長広岡謙二)

? 「じゃ暴力行為に対しての具体的を証拠はありますか。」(58回 昭和43年3月5日 島本委員)

「具体(的)につき」「具体と」について。

「具体につき」は「具体について」をふくむ。「具体的につき」「具体的については」も用例を得る。いずれも「具体(的なこと)につき」の意味合いである。

「具体につきまして、どこの地区をどうするというふうには、まだきまっておるものではございません。」

(55回 昭和42年7月20日 政府委員中部圏開発整備本部次長国宗正義)

「私が今申し上げました具体についても調査対象にさせていただくということですね。」(147回 平成12年3月15日 肥田委員)

「いろいろ具体的について我々党ははつきり要求を持っておりますが」(2回 昭和23年5月26日 中西功)

両者は少なくとも国会用語としては通行していると見るべきだろう。例を挙げる余裕は無いが、内閣総理大臣はじめ閣僚の使用例も多い。

「具体と」は日常では耳慣れない形があるが、これに対応する「具体的と」は一般である。

次の例に見られるように、「具体という{こと/もの/の}」の形となることが多い。「具体」の意味合いは「具体的なこと・具体的な内容・具体例」であり、下接する「と」は引用提示、とりたてが多い。は小泉現首相の厚生大臣時代の発言。

「何かはっきりした具体というものを聞けば、さっき何か二万個ぐらいは半年間ぐらいでできるけれどもというようなことでありますけれども・・・」(46回 昭和39年4月 大柴委員)

「しかし、今の法案は全体として三千億円増を認める。具体というのはこれからですよ。今決まるわけないじゃないませんか。」(141回 平成9年10月20日 厚生大臣小泉純一郎)

「具体(的)は」「具体(的)も」及び「具体的へ」について。

「具体は」の全例は、「具体は何かということになると」「具体はどういう分野が考えられるか」「具体はどうするかはこれからの議論」「具体はまだ答えられない」「今はちょっと具体は承知しておりません。」「個々具体は・・・地方自治体にお任せをする」「個別具体は答えにくい」「具体具体は人事院規則の準則にゆだねた」で、「具体的なことは」と言い換えてよい。

「具体的は」の例は37例すべてが理解しにくい。発言者の発言時の癖や言い損ないによる臨時的なものかとも考えられるが、それにしても例が多い。とりあえず、次のAからDの4つに分けておく。

- (A) 「具体的は」が「具体的な」に置き換えができるもので、10例ある。
- (B) 「具体的は」が「具体的な」と置き換えることはできず、「具体的には」と置き換え可能なもので、4例。
- (C) 「具体的は」は「具体的な」とも「具体的には」とも置き換え可能なもので、16例。
- (D) 「具体的な」「具体的には」に置き換えができないもので7例ある。その多くは「具体的なことは」の意味で理解できる。

以下はその例。(A)以外のものは、見かけ上「具体的なことは」の省略形としてもよい。

- (A) 「いまいろいろ私は具体的は問題を申し上げましたけれども」(66回 昭和46年10月8日 田代委員)
- (B) 「これもたびたび申し上げているところでございますが、まだ具体的はどうするかという検討は行っておりませんけれども」(98回 昭和58年5月10日 政府委員大蔵省主計局次長窪田弘)
- (C) 「内閣府の方からはこれまでのところ具体的は話は全く参っておりません。」(153回 平成13年10月18日

政府参考人厚生労働省生活統括官)

④「具体的はいいですよ。数がどのくらいあるか。」(72回 昭和49年5月14日 占部委員)

「具体は」と「具体的」の多くは、「具体〔的(なこと)〕は」とまとめられる。

「具体も」「具体的も」および「具体的へ」の例の中には、「抽象(的)も具体(的)も」や、「抽象(的)から具体(的)へ」のような例が含まれている。これらは限定された特有の用法であるが、日常でも見られる表現と考えて、考察から除く。

「具体的も」の例のうちの2例、「具体的には自治庁におまかせになるつもりか、あるいは個々の事業についていろいろ具体的も意見を言われるつもりか」(13回 昭和27年6月30日 前尾委員)「簡単に具体的も問題でお聞きしたいと思います。」(65回 昭和46年5月10日 大原委員)は理解できない。

「具体も」の1例は「抽象も具体もない」。

「具体的へ」の1例は「もうひとつ抽象的な質問で、具体的へ入りますけれどもね。」(87回 昭和54年5月28日 黒柳委員)。もう1例の「そういう具体的へ例について職業安定局長からちょっと説明いたします。」(80回 昭和52年3月1日 労働大臣石田博英)は理解しがたい。「へ」は不要なつなぎの音か。

「具体(的)まで」について。

「具体的まで」の4例はいずれも「具体的(なこと・なところ)まで」とみればよい例。うち3例は「具体的までいかない」のバリエーション。たとえば「具体的計画がないというわけですが、具体的までいなくても、例えば希望とか、あるいはこういう方向で検討しておるとか、そういったものがありましたら御答弁願いたいと思います。」(104回 昭和61年5月 貝沼委員)。これらは、日常では「具体的までとは」「具体的とまで」と言えばあるし、この表現でもあり得そうだが、「ただいま坂本委員が読み上げられましたように、どういう形でやるという具体的までは書いてありませんので」(34回 昭和35年3月 政府委員厚生省公衆衛生局長尾村偉久)となると、いかがか。

一方「具体まで」は「財産権の個々具体まで書き込むことは」の1例。

「具体です」「具体なのです」について。

「具体です」の3例をすべて示す。なお「具体的です」は普通の用法であり「具体的でして」「具体的でしょう」の例もある。

「向こうから具体的に提案されたのですね。 いや、具体ですよ、中国からは。具体的に提案されたのじゃないですか、いかがです。」(46回 昭和39年3月24日 久保委員)

「四千五百万貸したけれども、別な企業に振りかえて返済しておりますという意味の答弁しているんですから、その答弁メモで結構です。答弁の具体です。それを裏づけする資料、それで結構です。いいですか。」(96回 昭和57年4月2日 目黒今朝次郎)

「三点目に、これは具体ですが、長官、一度水保へ来てください。そして、現地で原告患者の皆さん方と十分話し合いをした上で決断をしてください。」(121回 平成3年9月17日 田中(昭)委員)

は文脈上「具体です」の中身が曖昧。 は「~の具体です」、 は「~は具体です」で、それぞれ「具体(的な内容)です」「具体(的な要望)です」。

「具体です」を「具体的です」に置き換えることは では不可能だが、 では可能。

「具体なのです」は1例だけで、実際のあらわれは「さらに具体なんですけれども、高校生の就職決定実態調査を日本高等学校教職員組合とか私立学校教職員組合連合とかがまとめておられますが、それを見ますと」(155回 平成14年11月21日 石井(郁)委員)

「なんです」の扱いについては異論もあろうがここでは一応「な」を助動詞「だ」に基づくものとした。この例は「具体的なことなんです」と言い換えてよい。

「具体する」「具体的する」について

「具体」「具体的」が動詞化した例がいくつかある。今、日常的にはこのような用法はない。以下、用例は「具体する」、 以下は「具体的する」の例。

「いま米ソ，日米，日ソというような形で，緊密な連絡がとられておりますので，三国共同の形でこれらのプロジェクトが具体するものと考えておるのであります。」(72回 昭和48年12月3日 内閣総理大臣田中角榮)

「現在実際に行なっております手続をできるだけ具体しようということをやったわけでございます」(61回 昭和44年7月17日 政府委員 大蔵省主税局長吉國二郎)

「前段の婚礼の場合，まったく同感であります。一日も早くそういうことが具体的することを熱望いたしまして，極力性教育に努力していきたいと思えます。」(2回 昭和23年6月29日 政府委員厚生技官濱野規矩雄)

「その計画が，どこどこの地域が具体的してきたか。」(24回 昭和31年2月22日 小松分科員)

「その辺の構想がどの程度具体的しておるか」(27回 昭和32年11月12日 栗山良夫)

「ミリ波，レーザー波の関係は一体どの程度まで実験が具体的しておるか，それを参考までにひとつ教えてもらいたいと思うのです。」(65回 昭和46年3月2日 石川委員)

「これも計画が具体的してまいりますと開銀の融資が導入できるということになっておるわけでございます。」(68回 昭和47年6月7日 政府委員建設省都市局長吉兼三郎)

「かくのごとき増産の方策の具体的しておらぬもとにおいて，経営者並びに労働者が全力をあげるということは，決してできない。」(1回 昭和22年10月13日 公述人東部石炭鉱業会理事長岡孝)

「特に特別振興計画を至急具体的するような方向をとっていただきたい。」(61回 昭和144年4月2日 中村喜四郎)

「これを臨時行政調査会の御答申の線に沿っていかに具体的して，いかなる制度を設け，いかなる法律をつくっていくかということにつきましては，ただいままだ作業中でございます」(48回 昭和40年2月5日 政府委員行政管理庁行政監察局長山口一夫)

「その中で，土地基本法をどのように具体的していくかが話し合われると思えます。」(118回 平成2年5月24日 小川仁一)

「具体する」の「が」格をうけ，「を」格を受けている。同様に「具体的する」も「が」格，「を」格，「を」格をとる。

意味的にはいずれの例も「～{が/を} 具体化する」「具体的に{なる/する}」で，まとめれば「具体化する」でよい。

「具体」「具体的」ともに動詞化し，ともに「を」格，「が」格を受けるが，活用形は連用形と連体形のみで，文末の終止形はない。いわば自動詞にも他動詞にもなる，ということは注目される。

ちなみに「具体する」の「が」は，あの田中角榮の使用例であるが，いずれにしてもこのような用法は国会での特有なものかとおもわれる。

「具体さ」「具体的さ」について

形容詞・形容動詞の語幹には接尾辞「さ」がつくとされるが，「具体」「具体的」ともに，その様な例はない。これは「具体」「具体的」の名詞度の高さ，非形容動詞性の一端を示す。このことは，格助詞をとる「具体」「具体的」の例が存在することと通ずる。

四

これまで見たように，国会での議論においては，「具体」「具体的」ともに日常とは違った用法が多様に見られ，かつその使用者の範囲の広がりを中心には行政省庁の幹部職員，局長や課長などの存在がある。

このことの検証として，東京都議会での議論の場合をしてみる。

都議会の議事録検索システムでは，平成9年8月以降，平成16年6月までの約7年間の本会議・委員会の用語検索ができる。国会の場合と同様にして「具体」「具体的」の用例を調べた。

荒尾：形容動詞化する漢語

具体で	3例	具体的で	45例
具体に	29例	具体的に	7559例
		具体的だ	4例
具体な	4例	具体的な	6171例
具体の	131例		
		具体的と	5例
		具体的です	3例
		具体的なんです	6例

データの大きさの違いによるところもあるだろうが、一見して驚くほどバリエーションがない。一方では「具体」と「具体的」とですみわけがありそうである。国会では見られた「具体が・具体を・具体と・具体は・具体です」などは例がない。この程度が我々の日常の姿ではないかとも思う。

形容動詞としてみた場合、「具体的」には「具体的で」「具体的に」「具体的だ」「具体的な」があるだけ。それでも対応する「具体」には「具体で」「具体に」「具体な」がある。

「具体で」は次の3例。

「秋葉原の問題について具体で議論をさせていただきたいんですけども、・・・新たに進められようとしているのが秋葉原の開発であり」(平成14年2月12日 吉田委員)

「あそこはとても小さくて、スーパーリフォーム的なところになるのですよ、どうなんだろうかと、非常に具体で聞いたのですけれども。」(平成14年10月31日 小松委員)

「具体の話が、ちっとも具体で返ってこないということでしたけれども、こういうことについては、自治会からの要望もあったと思いますが、」(平成14年10月31日 小松委員)

いずれも中止法ではなく、動詞に続く。形容動詞ではなく名詞の用法である点、国会の場合に同じ。意味用法も国会と同じ。

「具体に」は用例数が比較的多い。「具体(的)について」「具体(的)」につきの例はない。都議会でも国会同様に、その多くは「具体的に」と言い換えられる。「具体には」が8例ある。新旧の例を挙げる。

「今後、具体にいろいろまちづくりをこれに基づいて進めていくわけでございますけれども」(平成9年10月6日 名倉都市計画部長)

「ただ、具体に、じゃ、そのあれはどうかこうかというところまで検討しての発言ではございませんが」(平成16年6月10日 山崎都市基盤部長)

「具体な」は「具体的な」に言い換えられるなど、その意味用法は国会の場合と同じである。

「具体な取り組みとしましては、監理技術者等の雇用及び専任の確認、工事施工中の体制及び下請状況の確認を行っております。」(平成14年10月16日 大矢計画調整部長)

「今のこの段階で、大きな方向としては答申のとおりと考えておりますけれども、具体なものとしてどういったものというのは、この段階ではまだ出せないというのが正直なところでございます。」(平成15年9月30日 中田総務部長)

「アイディア公募プロジェクトから始まって、・・・段差解消機の開発・改良とか、具体な形でのプロジェクトが挙げられておまして」(平成16年6月10日 和田委員)

なお、は同一議員の発言。「具体」を多用する議員は他にもいる。

「具体の」は「具体な」と類似した用法である。その例は「具体の問題」を始め「話・形・例・課題・事業計画・執行・融資・跡地利用計画・情報化・取り組み」など多様な名詞に続く。これらは国会の例の場合と同様に日常一般では「具体的な」と言う。

連体修飾となる「具体な」「具体の」「具体的な」「具体的の」の使い分けについては、国会の場合も含めて未だ考えが無い。時代的变化の有無も7年間のデータからは読めない。

これらの用例数を、平成9年8月以降16年8月末までについて比較してみる。あわせて同時期の国会の用例数も対照する。

	具体的な	具体の	具体的な	具体的の
国会(平成9.8~)	16	708	5378	4
都議会(平成9.8~)	4	131	6171	0

全体的な都議会での傾向は、国会のに近似している。都議会では「具体的な」が多い分「具体の」が少なく、国会はその逆になっている点は違う。いわば国会では「具体の」が「具体的な」を侵食している。いずれにしても都議会も国会も「具体的な」に対して「具体の」が一定の位置を占めており、日常一般の用法と隔たった、無視できない用法となっている。「具体的の」が都議会では例がないことも注目される。

国会で見られた動詞化した「具体する」「具体的する」はここにはない。さらに「具体さ」「具体的さ」もない。

このように、都議会の用例から見ると国会での議論での「具体」「具体的」の用法には甚だ特有なものがあると結論づけられる(注5)。

五

国会は立法府であるから、法案を作るための議論をする。そのとき、具体的な事例から法案の整備が必要になることもあれば、大所高所からの判断で法案を用意することもある。いずれにせよ、考え方は内閣が示し、具体的な法案の下ごしらえは行政が行う。そして国会で法案が審議されるときは、議員が一方では具体例との関係で細部にわたる質問をする。また行政の姿勢を問う場合も具体的な問題が根底にあることが常である。このようなことから国会では、その性質上「具体的」ということばは重要語である。「具体」「具体的」の多用は、このことばそのものが実は具体的内容を持たない抽象語であることとも関係しているのかもしれない。いふならば便利なことばなのではないか(注6)。

一方「具体的」は「具体」から作られたのだから、国会での「具体」の用法は明治以来のもので、日常一般には消えているが国会には残っている化石的なものかもしれない(注7)。「具体」は歴史的事情から、行政省庁の管理職にある者、総理経験者である三木武夫・田中角栄・細川護熙・竹下登・小泉純一郎をはじめとする閣僚、そして質問者である国会議員が、「国会」という特異の社会で好んで使う語として生き続け、その用法が我々の身近にも伝播しているのかもしれない。日常では欠いている「具体」の使用は、その特性「具体」といいながら具体的ではないこと、「抽象」との関連性が潜在していること、「具体的」を用いるより簡略な表現となること、等もあって、「具体的」を使うより斬新さがあるとして、一部では「具体に」「具体の」が好まれる傾向が生まれているのかもしれない(注8)。嗜好性でいえば、「具体」の使用頻度の高い者が指摘でき、個人差がかなりあることは特徴である(注9)。

次稿では、用法の歴史をさかのぼる。また、本稿でも示唆した漢語の問題の一般として、形容動詞の用法を持つその他の語も視野に入れての論考を行う(注10)。

注

- 『新潮 現代国語辞典』は『草枕』の「具体を藉りて」を例示。
- 用例数110以上のものの「用例数」は、正しくは「ヒット数」の意味あいである。ヒットした1件に2例以上の用例がありうるが、その確認をしていないからである。また、検索上の問題がいくつかある。「具体」「具体的」の中止用法(たとえば、「これについて具体的、かつ詳細に」など)の例を今回は対象にしなかった。「具体的など」のように、検索結果が多量であっても疑問があるものは用例を見て修正した。「具体的など」のほとんどは「具体的な、どの」等であった。検索結果の数量が110以上のものは全例をチェックできていないので、このような単語切り上の問題例がいくらか混在している可能性がある。

また、国会議事録には、発言記録ゆえの問題がある。語尾を伸ばしたり、あいまい音が入ったり、言いさしたり、言い直したり、と言ったことがあるため、用例として疑問のものが出てくる。これらは適宜に判断して除いた。

- 3 「これは具体にどのようなことを命令で定める予定になっておるのが、伺いたい。」(40回 昭和37年3月20日 松井委員)
- 「将来の宅地開発予定地域等が具体に固まりますその都度拡充をして」(75回 昭和50年6月16日 政府委員国土庁土地局長河野正三)
- 「そういった点をいろいろ考えまして具体にいつまでということは相手方には言っておりませんが、早急に返事をしてほしいということは強く申し伝えてあるわけでございます。」(100回 昭和58年10月5日 政府委員文部省管理局長阿部充夫)
- 「具体には自動車のようなものも考えられるわけではありますが」(46回 昭和39年2月13日 政府委員自治専務官税務局長細郷道一)
- 「まだ具体には話は起こっておりませんが、新造船であるべきであると思います。」(50回 昭和40年12月2日 通商産業大臣三木武夫)
- 「そういうことも考えていこうということで局の方へおろしておりますので、具体にはちょっと政府委員からお答えさせますが、私からはちょっと感謝だけ申し上げます。」(113回 昭和63年12月15日 文部大臣中島源太郎)
- 4 「私どもとしては、これは公労法の基本に触れる大問題でありますから、団体交渉権の権威を確立したいという立場で、今日まで高松においてはまだ具体な内容には入りませんが」(29回 昭和33年9月11日 参考人全専売労働組合中央執行委員長佐藤新次郎)
- 「局長さんのほうから具体な問題を出しなさい、出しなさい、こういうふうにおっしゃるので、具体的な問題のほうへ入っていきます。」(55回 昭和42年6月9日 中谷委員)
- 「こちらの推定も交えながら現実問題としていま話が行われておりますのが、具体な数字としては十数名、もう少し具体化した数字で四十五名ばかり、さらに農水産系というような話としては四百名、全部合わせて四百名ばかり、」(85回 昭和53年10月13日 文部大臣砂田重民)
- 5 ロボット型全文検索の Google を用いて、「具体」「具体的」の使用状況を調べたが、今回はその結果を用いなかったが、「具体する」「具体的する」および「具体さ」「具体的さ」は、確認した範囲でいずれも例がある。なお加えて、新野直哉氏の2004年5月21日の214回近代語研究会の口頭発表「“返り討ち”の意味変化について 《気づかない意味変化》の一例として」の調査方法にならぬ、「具体の site:HP アドレス」により新聞10種(全国紙5紙、スポーツ紙5紙)が運営するHPでの用例を検索した。その結果、「具体に」2例・「具体な」1例・「具体の」4例・「具体的の」2例及び「具体する」1例・「具体的する」1例を得た。このほか、「具体的は」6例を得たが、これは国会の37例同様、問題のある例がほとんどであった。
- 「具体」が日常一般ではないことがわかると同時に、一方では動詞化している例もあることが注目される。
- 6 昭和63年4月20日の112回国会の文教委員会で次のようなやりとりが行われているのは象徴的である。
- 政府委員(文部省初等中等教育局長 西崎清久)「いろいろ問題として取り上げられているところにつきましては、それぞれ具体の問題として対処してまいりたいというふうを考えておる次第でございます。」
- 滝沢委員「・・・私は文部省がきれいごとでこのことを見過ごすわけにはいかぬと思うのでありますが、重ねて、具体的にいろいろと対処をするとおっしゃること、具体とは何であるかを承りたいと思います。」
- 7 明治以来、「具体策」「具体的政策」のように「具体」「具体的」には漢語が下接することが多いようである。この下接語が和語になると「の」で結んだり、「的」を「の」に置き換えたようなことが生じているのかもしれない。図式化すれば「具体」「具体の○○」「具体的」「具体の○○○○」のように。
- 8 東京学芸大学の国語科1年生を主とする学生134人にアンケート調査した。10題ほどのダミーの問いに混ぜて「その一覧表には具体()数字はまだ書き入れてありません。」「この具体()はあとで話すが、とにかく大変なことが起きた。」をきいた。空欄には文字を入れなくてもいいことも説明して調査した結果、前者で「具体な数字」が6名、「具体に数字」が1名いた。後者の問いでは「具体については」が6名、「具体は」が35名いた。
- 9 東京都議会以外に、青森・鹿児島・兵庫・滋賀・宮城・岐阜・熊本・岡山・大阪の府・県議会の議事録についても調査をした。全体的には東京都と同類である。この中で、宮城県議会は昭和22年からの用語検索ができるが、「具体」の例は昭和44年から出てくる。そしてその用例数は他の府県に比して異常に多い。調べると、山本壯一郎県知事の使用例が圧倒的に多い。これが数値を異常にしていると見てよい。
- 「具体」を多く使用すると思われる3名を例に、その使い分けの概略をしてみる。

和田貞夫(衆議院議員・大阪5区選出 昭和47年初当選。平成11年まで4回13年。)

具体で 0 具体的で 0 具体に 60 具体的に 179
具体的な 14 具体的な 48 具体の 2 具体的の 0 (用例数)

阿部充夫(文部省高等教育局長〔昭和61年~〕 同事務次官〔昭和63年~平成2年〕)

具体で 0 具体的で 0 具体に 165 具体的に 41
具体的な 1 具体的な 32 具体の 188 具体的の 0 (用例数)

山本壮一郎(自治省・自治大臣官房参事官 宮城県知事〔昭和43.3~平成元.3〕)

具体で 0 具体的で 1 具体に 175 具体的に 58
具体的な 0 具体的な 0 具体の 404 具体的の 1 (ヒット数)

「具体に」「具体的に」については、3人とも両用しているが、労組出身の和田は「具体的に」が、官庁の高官であった阿部と山本は「具体に」が多数派である。

連体用法は、和田は「具体的な」を軸に「具体な」も使う。阿部は「具体の」を軸に「具体的な」も使う。山本はもっぱら「具体の」に徹している。

「具体」を“官庁用語”とすると、和田<阿部<山本の順でその頻度が高まっている。

10 池上禎造『漢語研究の構想』(1984 岩波書店), 渡辺実編『副用語の研究』(1983 明治書院)に触発されるところが大きい。